

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

|   |  |
|---|--|
| (整理番号)<br>103   | 提案機関名<br>小田原市経済部農政課  |
| 要望問題名<br>梅の灰星病の防除等について  |  |
| 要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】<br>現在、小田原市内の梅の圃場で、灰星病と思われる、梅の木の枝先の枯れが多数見られます。<br>このまま当該症状が広がれば、梅の産地としての収穫量にも大きく影響があると想定されます。<br>そこで、この症状の原因の究明と防除等の対策についての研究をお願いします。 |  |
| 解決希望年限  | ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内               |
| 対応を希望する研究機関名  | <input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター |
| 備考  |  |

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

|         |   |      |             |
|---------|---|------|-------------|
| 回答機関名   | 農業技術センター  | 担当部所 | 生産環境部病害虫研究課 |
| 対応区分    | <input checked="" type="checkbox"/> ①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可   |      |             |
| 試験研究課題名 | (①、②、④の場合)<br>(1) 診断・同定及び防除技術の確立  |      |             |
| 対応の内容等  | 本年度、農業技術センター足柄地区事務所と共同で行っていますウメのかいよう病の調査中、特定の品種を中心に、1年生の枝の先端や途中が枯れる症状が見られました。うめの枝枯症状は様々な病原菌によって引き起こされますが、この症状は開花期から新葉展開期頃から花器を中心に浸潤が見られ、その後の経過が灰星病に似ています。この症状が広域に見られることから、農業技術センター足柄地区事務所と共同で、本症状が発生する時期に枝を採取し、枝枯症状の発生原因を特定し、その後対策を立てるための試験に新たに取組みます。 |      |             |
| 解決予定年限  | ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内  |      |             |
| 備考      |   |      |             |